

資料編

学会設立1973年9月から2008年3月までの学会諸活動、
および関連役員名を資料編にまとめた。

注) 本節の表中にある所属は、すべて当時の所属である。

1 歴代役員

1973年、林知己夫を理事長に理事会が組織され、1期3年、現在で12期目を迎える。理事長をはじめとする構成委員会の歴代の委員長は、表1の通りである。

表1 歴代役員

期 間	理事長	編集委員会			運営委員長	事務局長	組織検討 委員会 委員長	大会担当 委員会 委員長
		編集委員長	和文誌 編集委員長	欧文誌 編集委員長				
1973 - 1976	林 知己夫	林 知己夫	野元 菊雄	印東 太郎	池田 央	柳井 晴夫		
1976 - 1979	林 知己夫	山本 俊一	野元 菊雄	印東 太郎	安本 美典	柳井 晴夫 水野 欽司		
1979 - 1982	林 知己夫	肥田野 直	池田 央	松原 望	飽戸 弘	水野 欽司	柳井 晴夫 脇本 和昌	
1982 - 1985	林 知己夫	野元 菊雄 肥田野 直	池田 央	上笹 恒	飽戸 弘	岩坪 秀一		柳井 晴夫
1985 - 1988	林 知己夫	野元 菊雄	柳井 晴夫	上笹 恒	駒澤 勉	岡太 彬訓		鈴木 達三
1988 - 1991	肥田野 直	野元 菊雄	古川 俊之	宮原 英夫	水野 欽司	江川 清		池田 央
1991 - 1994	水野 欽司	柳井 晴夫	田栗 正章	村上 征勝	岩坪 秀一	繁樹 算男		
1994 - 1997	柳井 晴夫	池田 央	岡太 彬訓	繁樹 算男	田栗 正章	村上 征勝	松原 望	村上 隆 浅野長一郎 飽戸 弘
1997 - 2000	柳井 晴夫	池田 央	久保 武士	繁樹 算男	岡太 彬訓	村上 征勝	田栗 正章	村上 隆 飽戸 弘
2000 - 2003	杉山 明子	繁樹 算男	林 文	狩野 裕	山岡 和枝	村上 征勝	岡太 彬訓	岩坪 秀一
2003 - 2006	杉山 明子	繁樹 算男	吉野 諒三	繁樹 算男	山岡 和枝	馬場 康維	飽戸 弘	岡太 彬訓
2006 -	飽戸 弘	岩坪 秀一	今泉 忠	大津 起夫	菊地 賢一	吉野 諒三	林 文	繁樹 算男 植野 真臣

2 学会大会

大会は、学会設立時より、毎年秋に行われ、理論だけでなく、実践的な研究成果も数多く発表されてきた。また、毎回、特別講演や特別セッションを数多く設け、行動計量学にかかわる周辺話題も含め、そのときどきのホットな話題や最新の研究も議論されている。

表2 年次大会

回	開催期間	開催場所	大会実行委員長(所属)
第1回	1973年9月3日～6日	統計数理研究所	林 知己夫(統計数理研究所)
第2回	1974年9月2日～5日	統計数理研究所	林 知己夫(統計数理研究所)
第3回	1975年9月8日～10日	青山学院大学	瀬谷 正敏(青山学院大)
第4回	1976年9月2日～4日	東京大学	奥野 忠一(東京大)
第5回	1977年9月1日～3日	岡山大学	脇本 和昌(岡山大)
第6回	1978年9月5日～8日	立教大学	池田 央(立教大)
第7回	1979年9月6日～8日	大阪市立大学	生沢 雅夫(大阪市立大)
第8回	1980年9月4日～6日	慶応義塾大学	藤田 広一(慶応義塾大)
第9回	1981年9月3日～6日	名古屋大学	内田 良男(名古屋大)
第10回	1982年8月25日～28日	国語研究所	野元 菊雄(国語研究所)
第11回	1983年8月1日～3日	京都大学	木下 富雄(京大)
第12回	1984年10月4日～6日	東京工業大学	穂山 貞登(東京工業大)
第13回	1985年8月2日～4日	北海道大学	河口 至商(北海道大)
第14回	1986年8月25日～27日	東京大学	古川 俊之(東京大)
第15回	1987年8月20日～22日	福岡リーセントホテル	浅野長一郎(九州大)
第16回	1988年8月25日～27日	千葉大学	柏木 繁男(千葉大)
第17回	1989年8月3日～5日	岡山カルチャーホテル	脇本 和昌(岡山大)
第18回	1990年9月19日～21日	東京女子大学	杉山 明子(東京女子大)
第19回	1991年8月28日～30日	名古屋大学	吉村 功(名古屋大)
第20回	1992年9月21日～23日	東京工業大学	坂元 昂(東京工業大)
第21回	1993年9月2日～4日	大阪大学	直井 優(大阪大)
第22回	1994年8月29日～31日	筑波大学	久保 武士(筑波大)
第23回	1995年9月12日～14日	関西大学	辻岡 美延(関西大)
第24回	1996年9月7日～9日	幕張メッセ	宮埜 壽夫(千葉大)
第25回	1997年9月5日～7日	仙台市戦災復興記念館	海野 道郎(東北大)
第26回	1998年9月16日～18日	立教大学	池田 央(立教大)
第27回	1999年9月20日～22日	倉敷市民会館・芸文館	垂水 共之(岡山大)
第28回	2000年10月7日～9日	東京大学	繁樹 算男(東京大)
第29回	2001年9月14日～16日	甲子園大学	木下 富雄(甲子園大)
第30回	2002年9月19日～21日	多摩大学	今泉 忠(多摩大)
第31回	2003年9月3日～5日	名古屋大学	村上 隆(名古屋大)
第32回	2004年9月15日～18日	青山学院大学	二宮 理憲(青山学院大)
第33回	2005年8月26日～29日	長岡技術科学大学	植野 真臣(長岡技術科学大)
第34回	2006年9月11日～14日	聖学院大学	丸山久美子(聖学院大)
第35回	2007年9月2日～5日	同志社大学	村上 征勝(同志社大)

3 学会賞受賞者

本学会では、「功績賞」、「優秀賞」、「奨励賞」の3つの賞を設定し、優秀な研究を表彰している。功績賞・優秀賞は1986年より、奨励賞は1999年より授賞が開始された。また、「功績賞」と「優秀賞」が林知己夫賞となったのは、第17回（2002年度）以降である。受賞者は、表3 - 1、3 - 2の通りである。

表3 - 1 学会賞受賞者（功績賞、優秀賞）

回	年度	林知己夫賞（功績賞）	林知己夫賞（優秀賞）
第1回	1986年度	高根 芳雄（マッギル大学）	富山 慶典（筑波大学） 永岡 慶三（神戸大学）
第2回	1987年度	柳井 晴夫（大学入試センター）	宮埜 壽夫（千葉大学）
第3回	1988年度	水野 欽司（統計数理研究所）	電子総合研究所数理情報研究室
第4回	1989年度	後藤 昌司（塩野義製薬㈱）	竹谷 誠（拓殖大学）
第5回	1990年度	宮原 英夫（北里大学）	受賞者なし
第6回	1991年度	脇本 和昌（岡山大学）	小笠原春彦（JR 東日本） 村上 隆（名古屋大学）
第7回	1992年度	池田 央（立教大学）	吉野 諒三（統計数理研究所）
第8回	1993年度	岩坪 秀一（大学入試センター）	大津 起夫（北海道大学）
第9回	1994年度	繁榎 算男（東京工業大学）	岩崎 学（成蹊大学）
第10回	1995年度	松原 望（東京大学）	豊田 秀樹（立教大学）
第11回	1996年度	受賞者なし	岸野 洋久（東京大学） 前川 眞一（大学入試センター）
第12回	1997年度	村上 征勝（統計数理研究所）	足立 浩平（甲子園大学） 狩野 裕（大阪大学）
第13回	1998年度	肥田野 直（東京大学名誉教授・ 大学入試センター名誉教授）	市川 雅教（東京外国語大学）
第14回	1999年度	岡太 彬訓（立教大学）	今泉 忠（多摩大学）
第15回	2000年度	印東 太郎（U. C. アーバイン校名誉 教授・慶應義塾大学名誉教授）	江島 伸興（大分医科大学）
第16回	2001年度	西里 静彦（トロント大学名誉教授）	佐井 至道（岡山商科大学）
第17回	2002年度	江川 清（広島国際大学）	竹村 和久（早稲田大学）
第18回	2003年度	木下 富雄（甲子園大学）	鈴木 督久（株式会社日経リサーチ） 山岡 和枝（国立保健医療科学院）
第19回	2004年度	野元 菊雄（国立国語研究所名誉所員）	植野 真臣（長岡技術科学大学）
第20回	2005年度	久保 武士（龍ヶ崎済生会病院）	藤井 聡（東京工業大学）
第21回	2006年度	古川 俊之（国立病院機構大阪医療 センター）	北條 弘 鄭 躍暉（総合地球環境学研究所）
第22回	2007年度	鮫島 史子（テネシー大学）	倉元 直樹（東北大学）

表3 - 2 学会賞受賞者 (奨励賞)

回	年 度	肥田野直・水野欽司賞 (奨励賞)
第1回	1999年度	土屋 隆裕 (統計数理研究所)
第2回	2000年度	菊地 賢一 (大学入試センター) 前田 忠彦 (統計数理研究所)
第3回	2001年度	星野 崇宏 (東京大学)
第4回	2002年度	竹内 光悦 (立教大学)
第5回	2003年度	芳賀麻誉美 (女子栄養大学) 濱崎 俊光 (ファイザー株式会社)
第6回	2004年度	荘島宏二郎 (大学入試センター)
第7回	2005年度	森本 栄一 (株式会社ビデオリサーチ)
第8回	2006年度	城川 美佳 (東邦大学) 中山 厚穂 (立教大学)
第9回	2007年度	松田 映二 (朝日新聞社) 張 一平 (東京大学)

4 学会誌の特集

学会誌については、和文誌「行動計量学」と欧文誌“Behaviormetrika”をそれぞれ年間に2号、計4冊のジャーナルを発行している。それぞれの学会誌では、「特集」、「原著」、「研究ノート」、「総合報告」、「資料」、「その他」のカテゴリーで、欧文誌では、“Special Issue”、“Invited Paper”、“Articles”のカテゴリーで、研究成果等を公表している。以下、和文誌における「特集」のテーマ（表4-1）と欧文誌における“Special Issue”のテーマ（表4-2）をあげておく。

表4-1 学会誌の特集（和文誌「行動計量学」特集）

特 集 名	巻 (号)	発行年月
行動計量学の課題	1 (1)	1974年3月
分布	3 (1)	1975年9月
地域分布	4 (1)	1976年9月
質を測る	5 (1)	1977年9月
成長と変容	6 (1)	1978年9月
誤り	7 (1)	1979年9月
選択行動	9 (1)	1982年3月
国際比較	10 (1)	1982年12月
ラボトリー・コンピュータ	11 (1)	1983年9月
グラフィカル接近法	12 (1)	1984年9月
調査法の現状と問題	13 (1)	1985年9月
因果関係の推定	14 (1)	1986年9月
選抜試験をめぐる	15 (1)	1987年9月
あいまいさの計量化と意志決定	16 (1)	1988年9月
因子分析の最近の動向	18 (1)	1990年9月
多変量解析の理論と応用に関する最近の発展	19 (1)	1992年3月
交通行動研究の理論と応用	20 (1)	1993年3月
大学における「一般情報処理教育」 - 各大学の現状と今後の構想 -	21 (1)	1994年3月
音声のモデル	22 (1)	1995年3月
社会調査の精度	23 (1)	1996年3月
社会階層の計量分析	24 (1)	1997年6月
生と死の行動計量 - QOL を考える -	25 (2)	1998年9月
POS データの解析	26 (2)	1999年9月
EBM (Evidence Based Medicine)	28 (2)	2001年12月
電話調査の精度 (その1)	29 (1)	2002年3月
討論: 共分散構造分析	29 (2)	2002年12月
日本語観国際センサス電話調査の精度 (その2)	30 (1)	2003年3月
林知己夫先生追悼特集号 21世紀の行動計量学のために	30 (2)	2004年1月
東アジア価値観国際比較調査 (その1)	32 (2)	2005年9月
東アジア価値観国際比較調査 (その2)	33 (1)	2006年3月
地理学における多次元尺度構成法の応用	33 (2)	2006年9月

表 4 - 2 学会誌の特集 (欧文誌「Behaviormetrika」 Special Issue)

Special Issue テーマ	Vol (No)	発行年月
Categorical Data Analysis with Latent Variables	23 (1)	January, 1996
Covariance Structure Analysis	24 (1)	January, 1997
Covariance Structure Analysis (continued)	24 (2)	July, 1997
Analysis of Knowledge Representations by Neural Network Models	26 (1)	January, 1999
Comparative Study of National Character	29 (2)	July, 2002
Comparative Study of National Character (continued)	30 (1)	January, 2003
Multivariate Analysis of Investigative Psychology in Britain and Japan	31 (2)	July, 2004
Recent Development in Latent Variables Modeling	33 (1)	January, 2006

5 学会活動

5 - 1 月例シンポジウム・行動計量シンポジウム・講習会

行動計量シンポジウムは、学会創立時から行われており、第1回～第4回は「月例会」、第5回～第50回は「月例シンポジウム」とよばれた。実際は、毎月行われたわけではないが、毎月のように行おうと「月例」の冠がつけられていた。第51回からは、「行動計量シンポジウム」となり、現在にいたっている。表5 - 1に第1回から第91回までのテーマ、開催年月日、開催場所、オーガナイザーなどをまとめて示した。

表5 - 1 行動計量シンポジウム

回	テ - マ	開催年月日	開催場所	オーガナイザーなど
1	行動計量学の課題	1974年1月26日	統計数理研究所	山本 俊一 安田 三郎
2	因子分析法	1974年4月20日	統計数理研究所	青山博次郎
3	パターン認識	1974年7月13日	統計数理研究所	飯島 泰蔵
4	健康の計量化	1974年10月26日	統計数理研究所	山本 幹夫
5	非数理系における行動計量学の教育	1974年12月14日	統計数理研究所	池田 央
6	予測	1975年2月22日	大阪大学付属病院	古川 俊之
7	システム	1975年4月26日	統計数理研究所	近藤 暹
8	芸術とコンピュータ	1975年6月21日	統計数理研究所	豊川 裕之 安本 美典
9	分類	1975年10月18日	名古屋大学	水野 欽司
10	地域分析における諸問題	1975年12月13日	東京大学	安田 三郎
11	データ解析とモデル	1976年2月28日	統計数理研究所	奥野 忠一
12	システムシミュレーションと人間	1976年4月24日	東京大学	渡辺 茂
13	分布	1976年7月3日	慶応大学	印東 太郎
14	あいまいさ	1976年11月13日	東京工業大学	寺野 寿郎
15	集合行動の解析	1976年12月18日	京都大学 楽友会館	木下 富雄
16	マーケットセグメンテーションと経営戦略	1977年5月28日	統計数理研究所	井関 利明
17	学習のメカニズムと理論	1977年7月2日	専修大学 神田校舎	大泉 充郎
18	医学と統計	1977年12月17日	東京大学医学部	豊川 裕之 開原 成允
19	教育データの計量	1978年5月13日	岡山大学	脇本 和昌
20	システムと情報	1978年5月13日	専修大学 神田校舎	大泉 充郎
21	正気と異常	1978年7月1日	統計数理研究所	加藤 正明 林 峻一郎 奥野 忠一
22	行動計量学の方法論をめぐって	1978年11月25日	統計数理研究所	林 知己夫
23	臨床と疫学における意思決定とその数理モデル	1979年1月20日	大阪大学	山本 俊一 浅井 晃
24	計量政治学	1979年5月26日	統計数理研究所	関 寛治

回	テ ー マ	開催年月日	開 催 場 所	オーガナイザーなど
25	環境問題と計量化	1979年10月20日	統計数理研究所	山本 俊一 浅井 晃
26	教育工学における計量モデル	1980年 2月14日	神戸大学 教育工学 センター	永岡 慶三 脇本 和昌
27	フランスにおける “ Analyse des Doness ”	1980年 5月17日	統計数理研究所	林 知己夫
28	災害	1980年11月 8日	統計数理研究所	広瀬 弘忠
29	薬と行動計量	1981年11月28日	阪大医学部病院	梶谷 文彦 井上 通敏
30	調査データの信頼性	1982年 4月 3日	統計数理研究所	柳原 良造
31	ディスプレイによる統計的解析	1982年 8月30日	統計数理研究所 附属養成所	駒澤 勉
32	日本の女性の生き方 - 世論調査データの分析から -	1983年 6月13日	NHK 放送博物館	杉山 明子
33	ファジイ集合とその応用	1983年 6月25日	大阪市立大学	浅居喜代治
34	言語行動の計量的研究	1983年11月 1日	国立国語研究所	江川 清
35	多次元定性データの解析	1983年12月10日	大阪市立大学	田中 豊
36	多次元尺度法 (MDS) の最近の 動向	1984年 6月 2日	統計数理研究所	高根 芳雄
37	政治の計量モデル	1984年 6月16日	京都会館	三宅 一郎
38	現代人の宗教意識と行動	1984年12月 1日	大阪市立大学 田中記念館	金児 暁嗣
39	都市と人間生活	1984年12月 6日	統計数理研究所	柳原 良造
40	地理学における分析手法と行動論	1985年11月 2日	大阪市立大学 田中記念館	石川 義孝
41	日本人研究のあり方	1986年 2月 1日	統計数理研究所	林 知己夫
42	三相データの解析方法	1986年 2月 7日	統計数理研究所	宮埜 寿夫
43	社会調査とプライバシー	1986年 9月26日	統計数理研究所	柳原 良造
44	認識と意思決定の行動計量学	1986年12月 3日	大阪科学技術センター	木下 富雄
45	教育におけるコンピュータ利用	1987年 2月 6日	国立国語研究所	池田 央
46	街づくりのシェフ (市長) が語る 私のヌーヴェルキュイジン (新しい街づくり)	1987年10月 2日	東京工業大学	熊田 禎宣
47	人は形をどのように見ているか 人のパターン認識	1987年11月28日	京都大学 楽友会館パーラー	井上 通敏 木下 富雄 江島 義道
48	新しい MULTIWAY データ解析法 を目指して	1988年11月26日	統計数理研究所	岩坪 秀一 村上 隆
49	共分散構造分析と LISREL	1989年 3月17日	統計数理研究所	柳原 良造 石塚 智一
50	行動計量学の歩み	1989年11月18日	統計数理研究所	水野 鉄司
51	データ解析の理解とコンピュータ 利用	1989年12月 2日	名古屋大学 計算機センター	村上 隆
52	ハイ・テク利用の調査方法	1990年12月 8日	統計数理研究所	柳原 良造

回	テ ー マ	開催年月日	開 催 場 所	オーガナイザーなど
53	ストレスの概念について	1992年 6 月20日	統計数理研究所	林 峻一郎
54	「生と死」の行動計量 (1)	1992年12月19日	統計数理研究所	丸山久美子
55	MDL 原理とその応用	1993年 2 月27日	統計数理研究所	星 守
56	「生と死」の行動計量 (2)	1993年11月13日	統計数理研究所	丸山久美子
57	言語生活の行動計量	1993年11月20日	国立国語研究所	米田 正人
58	「生と死」の行動計量 (3)	1994年12月 3 日	国立国語研究所	丸山久美子
59	多変量解析の理論と応用の融合をめぐって	1995年 3 月25日	統計数理研究所	柳井 晴夫
60	スポーツの行動計量	1996年 1 月27日	早稲田大学 小野梓記念講堂	前田 忠彦 椎名 乾平
61	生と死の行動計量 (4)	1997年 1 月11日	統計数理研究所	丸山久美子
62	心理・数理・生理的アプローチの競合と協調	1997年 3 月18日	東京大学 教養学部	繁榎 算男 市川 伸一
63	生と死の行動計量 (5)	1997年 3 月22日	統計数理研究所	丸山久美子
64	社会ネットワーク研究の今日的課題	1998年 3 月13日	甲南大学	井上 寛
65	感性研究の新動向	1998年 6 月 6 日	東京工業大学	岡太 彬訓 往住 彰文
66	社会科学におけるゲーム理論の応用と可能性	1998年11月 7 日	統計数理研究所	佐藤 嘉倫
67	現代の高校生像	1999年 5 月22日	東北大学 理学部付属 植物園講義室	木谷 忍
68	テキスト型データ等の取得から活用まで	2000年12月 8 日	統計数理研究所	前田 忠彦 吉村 宰
69	実践的ベイジアンアプローチ	2001年 7 月13日	東京大学 教養学部	繁榎 算男
70	電話世論調査：RDD 法の検証	2001年10月20日	統計数理研究所	松本 正生 前田 忠彦
71	「緊急事態の調査・分析」 - 阪神・淡路大震災の事例 -	2001年11月15日	統計数理研究所	柳原 良造
72	行動計量学からの政策提言	2002年 3 月20日	東洋英和女学院大学 六本木校舎	林 理
73	データの科学と調査法	2002年 5 月11日	統計数理研究所	岩坪 秀一 山岡 和枝
74	データの科学と調査法 (その 2)	2002年 6 月 1 日	統計数理研究所	山岡 和枝 前田 忠彦
75	テキスト型データの解析を巡って	2002年 9 月11日	多摩大学 ルネッサンスセンター	大隅 昇 岡太 彬訓 今泉 忠
76	世論調査のゆくえ	2002年11月23日	多摩大学 ルネッサンスセンター	松本 正生
77	マーケティングと行動計量	2002年11月30日	立教大学	朝野 熙彦 岡太 彬訓
78	因果をめぐる統計的アプローチ	2003年 1 月25日	東京大学 教養学部 アドヴァンストラボ	繁榎 算男

回	テ - マ	開催年月日	開催場所	オーガナイザーなど
79	地域・地理・図形情報とデータ解析	2003年10月4日	岡山大学 創立五十周年記念館	垂水 共之 森 裕一
80	今こそ、調査の哲学を	2004年5月22日	多摩大学 ルネッサンスセンター	松本 正生
81	「評価グリッド法」その理論と測定・分析法の現状と進化	2004年8月21日	女子栄養大学 駒込校舎	芳賀麻誉美
82	潜在変数モデルにおける最近の発展 Recent Developments in Latent Variables Modeling	2004年8月25日 ～26日	東京大学 駒場キャンパス	和合 肇 繁樹 算男
83	Factor Analysis Centennial Symposium at Osaka	2004年10月2日 ～4日	大阪大学 中之島センター	狩野 裕
84	21世紀における行動計量学を展望する	2004年11月27日	青山学院大学 総研ビル	丸山久美子
85	社会調査と社会調査士	2005年10月8日	岡山理科大学 理大ホール	垂水 共之 田中 潔 森 裕一
86	Management of Social Problems and Justice in Group Contexts	2006年3月4日	東北大学 川内南 キャンパス教育学研究棟	木村 邦博
87	いま求められる調査とは - 各調査モードの比較検証 -	2006年11月11日	東京大学 駒場校舎	松本 正生
88	Justice and Forgiveness in Social Relations	2007年3月24日	仙台国際センター	木村 邦博
89	複雑系データの解析	2007年12月1日	統計数理研究所	丸山久美子
90	計量心理モデルの数理統計学的吟味	2008年3月8日	東京大学 教養学部	繁樹 算男
91	マイニング - 調査・システム・解析手法 -	2008年3月15日	岡山理科大学	垂水 共之 森 裕一 飯塚 誠也

なお、この他に次のような講習会が開催された（記録が現存するもののみ記載）

第2回：「人工知能と行動計量」、「多変量解析」（1974年11月）

第4回：「調査法 - 具体例を中心に -」（1976年5月）

第5回：「多変量解析の理論と応用」（1976年6月）

第6回：「医学生のための行動計量学」（1978年12月）

第12回：「多変量解析の応用」（1981年5月）

5 - 2 春の合宿セミナー

春の合宿セミナーは、合宿形式でさまざまな行動計量学的手法を学ぶもので、最新の計量的手法やその応用に関わる第一線の講師陣による講義を聞くと共に、セミナー形式での質疑応答も活発に行われきました。1997年度より、毎年3月に開催され、2007年度で、11回を数えます。

表5 - 2 春の合宿セミナー

回 (年度)	期 間	場 所	運営委員・実行委員等
1 (1997年度)	1998年3月28日(土) ～3月30日(月)	東京大学 検見川セミナー ハウス	岡太 彬訓 (立教大) 繁榎 算男 (東京大) 大森 拓哉 (東京大)
2 (1998年度)	1999年3月29日(月) ～3月31日(水)	大阪大学 吹田キャンパス	狩野 裕 (大阪大) 原田 章 (大阪大) 菅 志穂子 (大阪大) 三浦 麻子 (大阪大)
3 (1999年度)	2000年3月30日(木) ～4月1日(土)	愛知学院大学	千野 直仁 (愛知学院大) 村上 隆 (名古屋大) 野口 裕之 (名古屋大) 仁科 健 (名古屋工業大) 竹内 一夫 (愛知学院大)
4 (2000年度)	2001年3月9日(金) ～3月10日(土)	国立オリンピック記念 青少年総合センター	西川 浩昭 (筑波大) 廣瀬 英子 (東京女子大)
5 (2001年度)	2002年3月21日(木) ～3月22日(金)	安田生命アカデミア	岩崎 学 (成蹊大)
6 (2002年度)	2003年3月26日(水) ～3月28日(金)	東富士リサーチパーク内 TOTO 東富士研修所	岡太 彬訓 (立教大) 山口 和範 (立教大)
7 (2003年度)	2004年3月25日(木) ～3月26日(金)	長岡技術科学大学	植野 真臣・安藤 雅洋・ 永森 正仁 (長岡技術科学大) 前田 忠彦 (統計数理研究所) 大森 拓哉・星野 崇宏 (東京大) 荘島宏二郎・吉村 宰 (大学入試センター)
8 (2004年度)	2005年3月22日(火) ～3月24日(木)	東邦大学習志野キャンパス	菊地 賢一 (東邦大)
9 (2005年度)	2006年3月16日(木) ～3月18日(土)	同志社大学 京田辺キャンパス	宿久 洋 (同志社大)
10 (2006年度)	2007年3月30日(金) ～3月31日(土)	八王子セミナーハウス	大津 起夫 (大学入試センター)
11 (2007年度)	2008年3月29日(土) ～3月31日(月)	多摩大学多摩キャンパス	今泉 忠 (多摩大)

5 - 3 研究部会

研究活動の活性化をはかるため、毎年「小グループ研究会」に対して活動経費の助成を行ってきた（1975年度までは「サブグループ研究会」とよばれていた）。2002年度からは、小グループ研究会を発展させた「研究部会」を設け、より一層の研究活動の活性化をはかることにした。この研究部会には、一定地域（ただし、都心部から東京近郊までを除く）での研究推進活動や研究普及活動を主な目的とする「地域部会」と、オリジナリティーに富んだ研究成果をあげることが目的とする「研究グループ」の2つがあり、それぞれ助成を受けて活動している。

表5 - 3 研究グループ（サブグループ研究会・小グループ研究会）

研究会名	年度	世話人
計量分析談話会	1973	水野 欽司（名古屋大）・高橋 丈司（愛知教育大）
社会調査によるデータ開発研究会	1974	鈴木 達三（統計数理研究所）
評価問題研究会	1974	梶田 叡一（国立教育研究所）
計量社会分析研究会	1974	高森 寛・森平夾一郎（青山学院大）
データ解析と統計数理研究会	1975	生沢 雅夫（大阪市立大）・三宅 一郎（同志社大）
社会調査技法研究会	1983 - 1984	鈴木 達三（統計数理研究所）
マルチウェイ・データ解析研究会	1992	吉澤 正（筑波大）
調査法に関する研究会	1992 - 1995	杉山 明子（東京女子大）
視覚数理モデル小グループ研究会	1992	小山 隆正（情報通信東京研究所） 山ノ井高洋（北海道学園大）
行動科学研究会	1997 - 1999	海野 道郎（東北大）
食行動調査研究会	1998	小林 敬子（日本女子体育大）
計量社会学研究会	1998 - 2001	村瀬 洋一（立教大）
進化ゲーム理論研究会	1999	大浦 宏邦（帝京大）
選手特性調査	2000	小林 敬子（日本女子体育大）
好みの計量研究会	2001 - 2003	芳賀麻誉美（女子栄養大）
糖尿病栄養教育評価に関する研究会	2001	渡辺満利子（昭和女子大・短大）
地理学における多次元尺度構成法の応用	2003 - 2004	今泉 忠（多摩大）
社会調査研究会	2005 - 2006	城川 美佳（東邦大）
認知的統計的意思決定論研究会	2006 - 2007	繁樹 算男（東京大）
サーベイ・メソドロジー研究会	2006 - 2007	松本 正生（埼玉大）
栄養アセスメントプロセス研究会	2007 -	安達 美佐（国立保健医療科学院）

表5 - 4 研究部会「地域部会」

研究会名	年度	世話人
岡山地域部会（第1期）	2002 - 2005	森 裕一（岡山理科大）
東北行動計量学研究会	2002 - 2007	海野 道郎（東北大）
岡山地域部会（第2期）	2006 - 2007	飯塚 誠也（岡山大）

6 出版活動（行動計量学シリーズ、朝倉書店刊、全13巻）

1993年、朝倉書店から「行動計量学シリーズ」として出版し、1993年から1996年にかけて全巻がそろった。

表6 行動計量学シリーズ

巻	タイトル	著者	発行年月
1	行動計量学序説	林 知己夫	1993年11月
2	数量化のグラフィックス	穠山 貞登	1993年11月
3	健康の計量学	山本 俊一	1993年11月
4	医療と社会の計量学	山岡 和枝・小林 廉毅	1994年 5月
5	リーダーシップの行動科学	三隅二不二	1994年 9月
6	真贋の科学	村上 征勝	1994年 9月
7	現代テスト理論	池田 央	1994年10月
8	多変量データ解析法	柳井 晴夫	1994年12月
9	制約付き主成分分析法	高根 芳雄	1995年 2月
10	言語の科学	安本 美典	1995年 4月
11	意思決定の認知統計学	繁榘 算男	1995年11月
12	パターン認識	大津 展之・関田 巖・栗田多喜夫	1996年 7月
13	寿命の数理	古川 俊之	1996年 7月

なお、2009年から『シリーズ（行動計量の科学）』（朝倉書店）全10巻の刊行が決定している。

7 会報巻頭言

学会創立時から、会報が発行されている。1993年度までは、少しばらつきはあるものの毎年3号発行されており、1994年度からは、年間4号（3ヶ月ごとに）発行されてきている。2007年度末で116号を数える。

この会報の毎号の冒頭を飾るのが巻頭言。以下、そのタイトルをまとめる。

表7 会報の「巻頭言」

号	発行年月日	巻頭言タイトル	著者
第1号	1973年12月25日	日本行動計量学会の発足に当たって	林 知己夫
第2号	1974年4月10日	真の学際研究をめざすために	山本 俊一
第3号	1974年6月25日	和文誌編集幹事となって	野元 菊雄
第4号	1974年10月5日	欧文誌第一号刊行に当たって	印東 太郎
第5号	1975年2月1日	“ QUOVADIS ”	池田 央
第6号	1975年8月10日	行動計量学の社会的意義	竹内 啓
第7号	1975年10月6日	行動計量学シリーズ刊行をめざして	青山博次郎
第8号	1976年1月25日	学際研究と学際偏見	安田 三郎
第9号	1976年6月1日	学問と流行	野崎 昭弘
第10号	1976年10月15日	行動計量ヨーロッパ版雑感	戸田 正直
第11号	1977年2月15日	行動計量学これから	生沢 雅夫
第12号	1977年6月13日	インドにおける行動計量学	柳井 晴夫
第13号	1977年10月30日	「計量」と「なれ」	安本 美典
第14号	1978年3月8日	これからの行動計量学会	林 知己夫
第15号	1978年7月31日	現象解明と方法について	岩坪 秀一
第16号	1978年11月8日	人間の評価の利用	茅 陽一
第17号	1979年1月10日	喫煙論争をめぐる	古川 俊之
第18号	1979年5月20日	隣り付き合いの記	丘本 正
第19号	1979年10月10日	いよいよ80年代の活躍へ	松原 望
第20号	1980年1月20日	行動科学におけるティコ・ブラーエを待望する	印東 太郎
第21号	1980年4月15日	計量医学の要	駒澤 勉
第22号	1980年10月10日	悪貨は良貨を駆逐する	井関 利明
第23号	1981年4月2日	1980年代の役割と期待	河口 至商
第24号	1981年10月19日	行動計量学と多変量時系列解析	脇本 和昌
第25号	1982年1月20日	行動計量学での課題	浅野長一郎
第26号	1982年3月10日	客観的測定によるアプローチと主観的アプローチ	開原 成允
第27号	1982年7月7日	凡才にはつらい行動計量の話	水野 欽司
第28号	1982年10月25日	パソコン雑感	藤田 広一
第29号	1983年3月19日	実証的国際比較研究に参加して	飽戸 弘
第30号	1983年5月14日	消費者運動のすすめ - メーカーとユーザーの対話のために -	木下 富雄
第31号	1983年8月8日	行動計量学の行方	大島 正光
第32号	1983年11月7日	多様性、調和、統一、共存	上笹 恒
第33号	1984年4月9日	ヴェルサイユの空は晴れていたか	林 知己夫

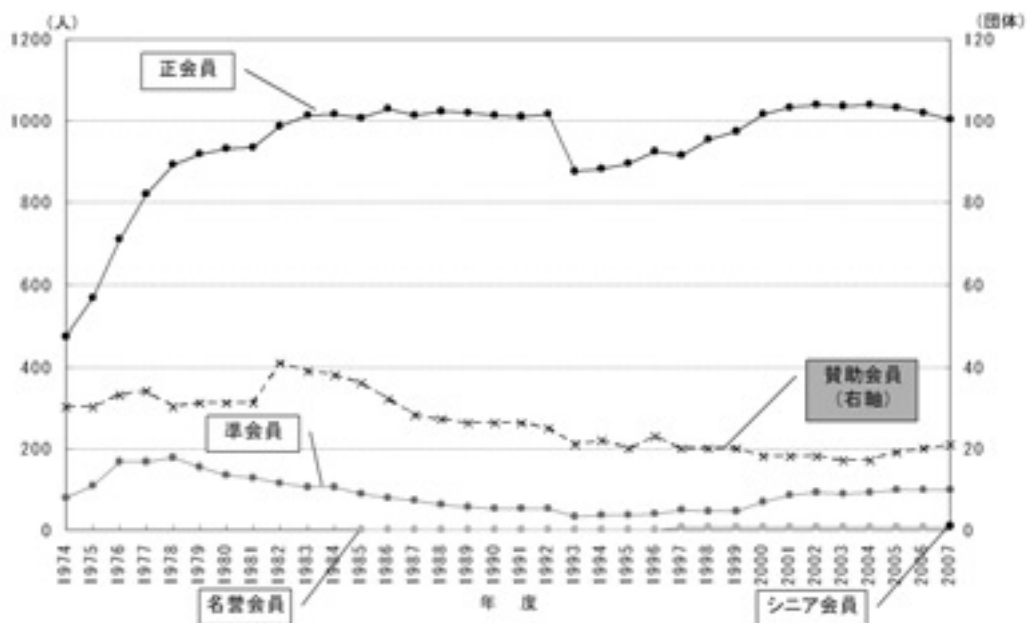
号	発行年月日	巻頭言タイトル	著者
第34号	1984年9月17日	「データ解析」随想	奥野 忠一
第35号	1984年11月8日	様々の課題と変容	丸山久美子
第36号	1985年4月8日	統計的データ解析の術的側面 - SDA は誰にでもできるか -	後藤 昌司
第37号	1985年9月30日	期待と戸惑い	岡太 彬訓
第38号	1986年1月27日	情報化先進国に在って思うこと	池田 央
第39号	1986年7月30日	文化の行動計量	三隅二不二
第40号	1986年10月8日	モデル診断と計算機統計学	田中 豊
第41号	1987年3月26日	村落研究と計量的アプローチ	西田 春彦
第42号	1987年11月18日	医学と行動計量学	井上 通敏
第43号	1988年2月26日	学会活動と行動計量学シリーズ刊行	肥田野 直
第44号	1988年6月15日	情報技術革新と人間行動	江川 清
第45号	1988年8月15日	今、“行動計量”に欲しいもの	水野 欽司
第46号	1989年1月31日	計量化の価値をどこに見いだすか	吉村 功
第47号	1989年4月12日	社会システムのリストラクチュアリング	熊田 禎宣
第48号	1989年9月30日	法律学と行動計量学	松村 良之
第49号	1990年3月27日	研究評価	野元 菊雄
第50号	1990年4月30日	行動計量の資産を作ろう	池田 央
第51号	1991年3月15日	調査データベースの必要性	中西 尚道
第52号	1991年5月1日	生活習慣の計量	高木 廣文
第53号	1991年8月25日	理事長就任についてのご挨拶	水野 欽司
第54号	1991年10月5日	気になる言葉	海野 道郎
第55号	1992年1月7日	文献の顔と学会の顔	村上 征勝
第56号	1992年6月15日	教養改組と行動計量学	田栗 正章
第57号	1992年10月15日	これからの時代と行動計量学	林 知己夫
第58号	1993年3月15日	行動計量学と現場主義	岩坪 秀一
第59号	1993年10月15日	計算機環境と行動計量学	馬場 康維
第60号	1994年3月15日	意思決定の行動計量学	繁樹 算男
第61号	1994年6月1日	理事長に就任して	柳井 晴夫
第62号	1994年9月1日	行動計量学は虚学か	齋藤 堯幸
第63号	1994年12月1日	臨床医学研究と行動計量学	久保 武士
第64号	1995年3月1日	数理モデルと日常言語	村上 隆
第65号	1995年6月1日	統計手法の選択	岩崎 学
第66号	1995年9月1日	梅干しと塩づけオリーブ	高根 芳雄
第67号	1995年12月1日	止めよう!! 見ぬフリ、知らぬフリ	柳原 良造
第68号	1996年2月15日	統計を恐れず、行動計量という海へ出よう	宮原 英夫
第69号	1996年5月25日	見るもの、見えないもの、量れること、量れないこと	飽戸 弘
第70号	1996年10月1日	第24回大会を終えて	宮埜 壽夫
第71号	1996年12月1日	大学教育の一環としての「住民調査」	吉野 諒三
第72号	1997年2月25日	調査はむづかしい	林 文
第73号	1997年6月1日	理事長に再選されて	柳井 晴夫
第74号	1997年9月1日	急がれる調査データライブラリーの構築	杉山 明子
第75号	1997年12月1日	第25回大会を終えて	海野 道郎
第76号	1998年3月1日	社会調査データの活用	佐々木正直

号	発行年月日	巻頭言タイトル	著者
第77号	1998年6月1日	年寄りの昔話	京極 純一
第78号	1998年9月1日	小学校からの行動計量学会	市川 伸一
第79号	1998年12月1日	第26回大会を終えて	池田 央
第80号	1999年3月1日	組織の構造と発展、ひとつのケース	西里 静彦
第81号	1999年6月1日	21世紀は行動計量学の時代である	狩野 裕
第82号	1999年9月1日	春の合宿セミナーについて	岡太 彬訓
第83号	1999年12月1日	第27回大会を終えて	垂水 共之
第84号	2000年3月1日	論文 - その世俗的な話し -	林 知己夫
第85号	2000年6月1日	新理事長に選ばれて	杉山 明子
第86号	2000年9月1日	道具は原理を知ってこそ使うべきか	足立 浩平
第87号	2000年12月1日	第28回大会を終えて	繁榎 算男
第88号	2001年3月1日	データマイニングと認知科学	豊田 秀樹
第89号	2001年6月1日	統計解析の原理の教育	南風原朝和
第90号	2001年9月1日	コンピュータがひらくあたらしい統計学、 そして時代が求めるデータ解析術	山口 和範
第91号	2001年12月1日	大会を終えて	木下 富雄
第92号	2002年3月1日	実践としての行動計量学	吉村 宰
第93号	2002年6月1日	行動計量学会の国際化 - 心理測定学会国際大会 (IMPS2001) の体験を通して -	柳井 晴夫
第94号	2002年9月1日	母集団力学に基づく日本行動計量学会の現状分析	江島 伸興
第95号	2002年12月1日	林知己夫先生を偲んで	杉山 明子
第96号	2003年3月1日	第30回行動計量学会大会報告	今泉 忠
第97号	2003年6月1日	理事長に再選されて	杉山 明子
第98号	2003年9月1日	「行動計量学」とは何か	竹村 和久
第99号	2003年12月1日	第31回大会を終えて	村上 隆
第100号	2004年3月1日	学会への提言	芳賀麻誉美
第101号	2004年6月1日	「データの科学」と林知己夫著作集	村上 征勝
第102号	2004年9月1日	個人情報の保護とデータ収集の重要性	西川 浩昭
第103号	2004年12月1日	日本行動計量学会第32回大会を終えて	二宮 理熹
第104号	2005年3月1日	医学統計学の実践	濱崎 俊光
第105号	2005年6月1日	産業界と学会の交流の場	朝野 熙彦
第106号	2005年9月1日	実務における行動計量	横田賀英子
第107号	2005年12月1日	日本行動計量学会第33回大会を終えて	植野 真臣
第108号	2006年3月1日	理事長の任期を終えて	杉山 明子
第109・110号 (合併)	2006年9月1日	理事長に選出されて	飽戸 弘
第111号	2006年12月1日	行動計量学会の更なる発展を願いつつ - 名誉会員に推薦いただきまして -	池田 央
第112号	2007年3月1日	日本行動計量学会第34回大会始末記	丸山久美子
第113号	2007年6月1日	調査の終焉	鈴木 督久
第114号	2007年9月1日	「林知己夫賞(功績賞)に！」	古川 俊之
第115号	2007年12月1日	日本行動計量学会第35回大会報告	村上 征勝
第116号	2008年3月1日	日本の統計教育の現状と期待	竹内 光悦

8 会員数の変遷

会員の種別には、正会員、準会員（学生会員）、名誉会員、シニア会員、賛助会員の5つがある（シニア会員は2005年度から新設）。学会設立後の1974年6月7日の在籍数は、正会員473名、準会員80名、賛助会員30団体であったのが、2007年11月14日の時点で、正会員1003名、準会員98名、名誉会員8名、シニア会員1名、賛助会員21団体となっている。なお、会報27号（1982年7月7日発行）には、学会設立から10年間の会員数の動向が載っているのので、参考にされたい。

図1 会員数の推移（概要）



注) 会員データベースの古い記録からは正確な会員数の変化を追い切れなかったため、会報に記載されていた会員数のうち、その年度の最も新しい人数を用いながら、会員数の変化を大まかに示したものである。1993年度に正会員が大きく減っているのは、それまでの会費長期未納者などを整理したためである。